大竹野トンネルが起工

無事故と早期完成祈る

県道鹿屋吾平佐多線のバイパスとなる大竹野トンネルの安全祈願祭が24日、根占町大竹野の現地で行われた。県大根占土木事務所や施工業者ら関係者が神事を行い、作業の安全と無事を祈願した。

安全施工を祈念した神事＝根占町の現地で

大竹野トンネルは17年3月の完成を予定しており、バイパス全体は19年度の供用開始を目指している。

安全祈願祭には、大根占土木事務所の鶴巣富雄所長や鹿屋労働基準監督署の松本賢治署長、森山裕参議院議員（代理）、施行業者ら約50人が出席。鍬入れ式の後、神殿に玉串を捧げ、工事と従業員の安全、無事を祈願した。

鶴巣所長は「いよいよ本格的な工事が始まるが、事故が起きないよう安全には十分注意を払い、バイパス区間全体の供用が早期に実現することを期待している」と挨拶。共同企業体を代表して谷口明広丸福建設㈱社長は「事故防止を最優先に考え細心の注意を払いながら、立派なトンネルを造りたい」と述べた。

トンネルは根占町大竹野から同町門木に抜けるもので、延長450㍍。NATM工法を採用し現在は30㍍ほど掘削が進んでいる。15、16年度の2カ年で整備を計画、16年度を支出年度とする債務負担行為に限度額14億円を設定している。施工は丸福建設・吉留建設産業・百次建設JVが担当。

また、バイパス延長は5㌔。根占町大竹野と佐多町を結ぶ県道が急勾配でカーブが多いことなどから、建設されるもの。主な構造物は大竹野トンネルのほかに、橋梁が6基設置される予定で、既に2基が完成しており、大隅縦貫道の候補路線になる。バイパス全体の総事業費は70億円を見込む。

川辺エコレンガ

国発注の現場で初採用

本県リサイクル活性に期待

産業廃棄物の焼却によって残った灰から再生された「川辺エコレンガ」が、川辺郡川辺町平川の国道225号平山中地区交差点改良の歩道部に、国の発注する現場では今回初めて採用された。

加覧組の提案で川辺エコレンガを採用したバス停周辺＝川辺町の現場で

川辺エコレンガは、エコ・クリエート（野村秀洋社長、本社・鹿児島市）が開発したもので、ごみ処理問題について難題を抱えていた川辺町が数年前に同製品に着目。以来、町内の学校、住宅のエントランス部や公園の歩道部など町内の公共施設に次々と採用した。これらによって、現在では地域とともにリサイクルを進める町として、県内外から注目が集まっている。

今回、国土交通省が発注した国道225号川辺町平川地内の平山中地区交差点改良の歩道部（片側50m、幅員3・5m）のうち、バス停周辺部（約500㎡）に対して、受注した㈱加覧組（新谷政昭社長）の提案により2万個の川辺エコレンガが初採用された。

今回、同施工現場の監督を務めた新谷昭彦氏は「環境にやさしい再生品として国に認められ、非常にうれしい。地元をはじめ、本県リサイクルの活性化を図る起爆剤として、今後も川辺エコレンガが多く採用されることを期待したい」と語った。

宅建審議会

監督処分や現況を審議

取引業者の高齢化報告

宅地建物取引業審議会（山下正一郎会長）は26日、鹿児島市の県庁議会庁舎で15年度宅地建物取引業審議会を開き、宅地建物取引業者の監督処分及び現況などの審議がなされた。

同日は、山下正一郎氏を座長に宅地建物取引業者の監督処分及び現況などの報告が行われた。この中で、事務局から大臣許可や県知事許可を取得している業者も3年度（許可業者数1948社）をピークに減少し、14年度末で本県の許可業者も1732社にとどまっているほか、15年2月末現在でも1708社となっている。また、地域別に占める割合は昨年に次いで鹿児島市郡が56％、国分姶良郡13％で上位を占めている。また、業者数の推移でみても九州で2番目に多い現状を述べた。15年度の宅地建物取引業主任者の合格率が189人（合格率14・2％）、14年末の登録者数が6508人に上っているほか、資格者の高齢化（50歳以上が3700人以上）なども報告された。

次いで、本県の監督処分は全体で5件、うち、業者の取り消し処分が2件、免許基準に該当しない1件、宅地建物取引主任者処分2件があり、処分内容などについては公告していると述べた。

建物取引業者の許可取得現状の報告が行われた審議会＝鹿児島市の県庁で

地域情報化講演会

電子入札の動向解説

総務省九州総合通信局や県など主催の「地域情報化講演会in鹿児島」が26日、鹿児島市の県市町村自治会館で開かれ、IT関連の関係者多数が参加し、地域における国のIT政策と情報化社会の今後の展開・動向などについて聴講した。

真剣な表情で聴講する参加者＝鹿児島市の県市町村自治会館で

講演会では、主催者代表の和田正道県出納長の挨拶の後、総務省の鬼頭達男技術総括審議官と松井房樹九州総合通信局長が「ユビキタスネットワーク社会の構築に向けて」、「九州地域の情報化の現状と課題」と題して講演を行った。

このうち、松井氏は、全国ブロードバンド構想や地域イントラネット基盤施設整備事業のほか、全国各自治体における電子入札等の導入状況について紹介した。この中で都道府県・政令市は15年度からシステム構築を行い、16年度以降に開始する団体が多いと説明し、「都道府県を中心に国土交通省の電子入札システムを採用する団体が多いが、総務省の電子入札・開札システムを採用する団体も増加する見通し。また市町村では、16年度以降に各都道府県の電子入札システムに参加（共同利用）する形態で導入が進展するのではないか」と、今後の見通しを述べた。

くす玉開き等で完成を祝った記念式典＝鹿児島市の谷山荘で

谷山荘等改装記念式典

老若の交流の場に

「谷山円明庵児童クラブ」開設及び「谷山荘」改装（レクリエーションルーム・ふれあいルーム開設）の記念式典が26日、鹿児島谷山中央1丁目の現地で開かれ、市及び市議会議員、地域住民、施工業者ら多数が出席して同施設の完成を祝った。

式典では、赤崎義則鹿児島市長、長田徳太郎鹿児島市議会議長らがテープカットを行った後、児童クラブ児童らとともにくす玉割開き等で完成を祝い、出席者から大きな拍手が沸き上がった。

続いて、場所を施設内のレクリエーションルームに移して開式に入り、初めに赤崎市長が「新しい時代にあった運営のための改装であり、やさしい心、先々を考えた取り組みに心からうれしく思う。生きがいを持って楽しく過ごせる場として、より住み良い谷山荘、より楽しい円明庵になるようにしてほしい」と挨拶。次いで来賓祝辞の後、児童クラブ児童と谷山荘利用者がお礼の言葉を述べた。この中で、児童クラブを代表して谷山小学校2年生の野田雄斗君は「僕たちはきれいな部屋で勉強して、楽しく遊びます」と元気よく挨拶した。

同施設は、谷山荘の居室を改修して児童クラブの分園を設置、老人福祉施設内に児童クラブを併設するのは、中核市35市で初めての試みとなった。

施工業者は次の通り。

大修建設㈱　㈲外園設備　㈲ハマダ電設　丸岩電機㈱　㈲金丸造園土木　西栄設備事務所㈱